



RENAISSANCE OF AGRICULTURE IN YAMANASHI 2010

やまなし農業ルネサンス 普及センターの活動報告

アグリビジネスモデル・トライアル 支援事業の取り組み進む 「中北地域普及センター」



県では、地域の素材を活かした新しい商品の定着化や産地化を促進するため、農業協同組合や営農集団等が実施する、生産から流通、販売を一体的に捉えたアグリビジネスモデルに対する実践への支援を行っています。

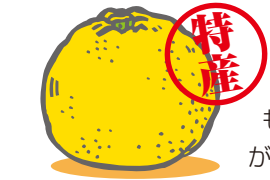
中北地域普及センター管内においては、今年度本事業を活用し、巨摩野農業協同組合が、南アルプス市産貴陽の産地ブランドの強化を図るため、統一選荷箱や新しい選果方法などの検討・実施に取り組んでいます。



●イタリアン野菜検討会

また、北杜市内の有機野菜生産者等から構成される「イタリアン野菜研究会」が、イタリアン野菜など栽培事例の少ない野菜の栽培技術の検討と都内レストラン等へのサンプル提供やPR等に

特産品のゆずを利用した 地域活性化への取り組み



「峡南地域普及センター」

富士川町穂積地区は南向きの傾斜地で冬季でも温暖な気候に恵まれることから、ゆずの栽培が盛んに行われており、現在では関東でも有数の産地となっています。

地区の中には、特産のゆずを活用した都市農村交流イベントや、加工品の開発・販売に取り組む団体が複数存在しています。峡南地域普及センターでは、産地の維持や地域活性化に向けてこのような団体の活動支援を行っています。

今年度は、ゆずの収穫ボランティアやオーナー制度、加工体験等の交流イベントの実施支援、また、ゆずを用いた新しい加工品の開発支援を行っています。

今後も引き続き、交流イベントの拡充や新商品開発に向けた支援を行い、ゆず産地の維持・発展に取り組んでいきたいと思ひます。



●ゆずの収穫ボランティア



今年も果樹援農支援に向け 技術講習会がスタート！

「峡東地域普及センター」



●熱心に聞き入る受講生



●講座開講式

11月10日、笛吹市のスコレーセンターにおいて、平成22年笛吹市援農支援センター技術講習会開講式が行われました。この技術講習会は笛吹市の援農支援センターが主催するもので、市内の果樹農家からの労力要請に即応できる人材を育成するため、モモやブドウ等の管理作業についての知識や技術習得をねらいとしています。今回の技術講習会は果樹の剪定で昨年に続き2年目ですが、事前の申込者数は144名と前年の80名を大幅に上回る希望がありました。

16日からは、境川町でスモモの剪定講習会が始まりました。初めての方や多少経験のある方など様々ですが、講習会では全体説明の後班毎に分かれ、普及センターをはじめJAや担い手協など関係機関が連携し、指導にあたっています。

この技術講習会を始め、農業防除の講座など、援農支援センターの様々な取り組みが果樹農家の生産を支援することにより、果樹産地の維持・発展に繋がることが期待されます。

農業未経験者を対象に 農業基礎技術講習会を始めました！

「富士・東部地域普及センター」



●実践系農塾での講義



●学習農園での指導

実践系農塾

富士・東部地域普及センターでは2つの市、町と連携して次のような取り組みを始めました。

西桂町では、退職者や普段は家にいる方などを対象にした「学習農園」を今年9月から開始しました。ここでは、秋冬野菜を教材に栽培の実技や肥料・農薬の使い方などの基礎知識を学んでいます。

都留市では、近い将来就農を目指す若者が多く参加し、水稻を教材にして栽培技術や植物の基本生理などを体系的に学ぶ場として、「実践系農塾」を11月から始めました。

いずれの取り組みも、農業に興味を持ちながらもこれまで一歩を踏み出せなかった方を対象に基礎的な技術を学ぶ場を提供し、農業の楽しさを知ってもらい様々な形で農業に携わることが増えることを目指しています。

まだ始まったばかりですが、今後は通年での開催、開催市町村の拡大な



家畜の寒冷対策について

「畜産技術普及センター」



●コルツヒーターの利用事例



●ヒートマットの利用

●カーテンの利用 (隙間を板で塞ぐ)

11～12月の気象予報では、11月下旬は気温の高い確率が50%と高めに推移しますが、12月前半より気温が低くなる確率が高くなり、夜間に急激に冷え込み始める時期でもあるため、寒さに弱い幼畜に対して十分な寒冷対策が必要です。適切な保温や飼養管理対策等を実施し、事故発生や損失を防ぐことが大切です。

冬季は、寒さのため畜舎を密閉しがちですが、糞尿からのアンモニアガス、メタンガス、窒素ガス等が充満し、肺炎などをひきおこす原因となるため、換気には十分気をつけて下さい。また、水道水が凍結して給水が制限されると、採食量の低下等がみられるので、ウォーターカップ等を点検して下さい。特にニップル式の飲水器は針弁部が凍結しやすいので注意して下さい。寒風が当たる給水管には断熱材を巻くなどして凍結防止策を取る